

編集後記

病院内では今もマスク着用が義務付けられているものの、外に出ると日増しにマスク姿の人が減っていくのが実感される。街中でマスクを外してみると、わずかばかりの後ろめたさと大いなる解放感を感じるのは私だけではあるまい。それにしても、コロナ禍は本当に明けたのだろうか？ 報道からは5月の連休明けには第9波の到来を危惧する声を耳にしたが、1カ月が過ぎた現在でも爆発的な感染流行は聞いていない。まるで5類への移行に呼応するように、新型コロナウイルスが鳴りを潜めているかのようだ。これまで散々痛い目に遭わされてきたので楽観的にはなれないが、多くの感染症流行には終わりがあがるのも事実のようだ。過去の記録を調べてみると、100年前の「スペイン風邪」も日本での流行は1918年から1921年まで第3波に及んだ末に鎮静化している。「ベスト」も繰り返し流行しているものの、大流行した後は潮が引くように鎮静化している。宿主側の免疫も関係しているだろうが、感染流行にも微生物の集団としての寿命があるような気がしてならない。大雑把な言い方で大変恐縮であるが、新型コロナウイルスもその類のように過去の感染症になることを祈る。

さて、今月の特集テーマは「腰痛診療の深化—“標準”と“こだわり”を知り診療に生かす」であり、福島県立医科大学整形外科の二階堂琢也氏にご企画いただいた。『腰痛診療ガイドライン2019（改訂第2版）』によると、腰痛は「他の運動器疾患に比較して心理社

会的因子の関与が強いこと」が示されており、疼痛の程度が画像上の器質的所見と必ずしも一致せず、慢性化することもまれではない運動器疼痛の代表である。平成22年の厚生労働省調査によると、腰痛は日本の有訴者（自覚症状のある者）のうち、男性で1位、女性で2位と最も多い症状の1つであり、腰痛は医学的問題だけではなく、社会的問題とすることもできる。痛みのメカニズムに関する基礎的研究や新規薬剤の臨床的研究は飛躍的に進歩しており、多職種チームによる集学的治療が求められている。

今回の特集の特徴はサブタイトルが示すように様々な視点から標準的な腰痛治療を示すとともに各執筆者のこだわりや流儀について記載されている点であり、一読して「なるほど」と思うことしきりであった。腰部脊柱管狭窄（症）の腰痛に対して各種ブロックを駆使した診断の進め方、「Joint by Joint Theory」と「ピラティスコントロールロジー」による運動療法と最小侵襲・全内視鏡手術へのこだわり、腰椎分離症における発育期の患者への接し方、パーキンソン病に伴う腰痛の特殊性と脳神経内科医との連携の重要性、重要な鑑別診断である仙腸関節障害や股関節疾患について腰痛との鑑別の仕方、スポーツ選手の腰痛、高齢者の腰痛、腰痛における心理社会的因子の関与についてなど、幅広い視点から最新の情報が述べられている。今回の特集を通じて読者の腰痛治療の知識が深まり、明日の日常診療に益することを祈念する。（中島康晴）

「整形・災害外科」第66巻 第8号（7月号） 2023年7月1日発行（毎月1回1日発行） 定価 2,970 円（本体 2,700 円＋税 10%） 年間購読料金 定価 45,980 円（本体 41,800 円＋税 10%） 〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03 (3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03 (3813) 0288 www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 (株) 文京メディカル TEL 03(3817)8036
--	---

・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。